

写

29生産第897号  
平成29年7月25日

東北・関東・北陸・東海・近畿・  
中国四国・九州 農政局生産部長  
北海道農政部長  
内閣府沖縄総合事務局農林水産部長

殿

(農林水産省※1) 生産局農業環境対策課長

高温・少雨に伴う農作物の被害防止に向けた技術指導の徹底について

気象庁発表の「全般1ヶ月予報(平成29年7月20日)」によると、平年と比較し全国的に高温となる見込みである。また、先般、東北、北陸地方を除き梅雨明けを迎えたところであるが、関東甲信地方など一部地域では降水量の少ない状態が続いており、高温、干ばつによる農作物の生育への影響が懸念されるところである。

このため、「農業技術の基本指針」(平成29年改定)(平成29年3月31日公表)([http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/g\\_kihon\\_sisin/sisin29.html](http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/g_kihon_sisin/sisin29.html))を踏まえ、下記について、各地域の状況に応じた迅速かつ適切な対応が行われるよう、〔貴局管内の都府県に対し、〕技術指導の徹底を図られたい。

施行注意：1 \*1は、各農政局宛ては除く

2 [ ]は、各農政局宛てのみに記載とする。

## 記

### 【共通事項】

1. 熱中症対策として、高温下での長時間作業を避け、水分補給と休憩を取るよう心がけること。特に、高齢者は、暑さに気づくことが遅れたり、無理をしやすい傾向があることから、熱中症が発生しやすい高温多湿の日や日中の時間帯に巡回を行うなど、効果的な注意喚起を行うこと。
2. 農業用水の確保のため、関係機関との調整を図り、計画的な配水が行われるよう措置すること。

### 【野菜】

1. 干ばつ対策
  - (1) 干ばつ傾向にある地域においては、土壌の保水力を高め、また、根を深く張らせるために、深耕、有機物の投入等に努める。さらに、マルチ等により土壌面からの蒸発防止に努めること。
  - (2) ハダニ類、アブラムシ類等干ばつ時に発生が多くなる傾向の病害虫については、その発生動向に十分注意し、適期防除に努めること。
2. 高温対策
  - (1) 全般
    - ア. かん水は、立地条件や品目、生育状態等を十分考慮し、早朝・夕方に実施すること。また、地温上昇の抑制や土壌水分の保持を図るため、使用時期や施肥等に留意し、地温抑制マルチや敷わら等を活用する。高温耐性品種の選定に当たっては、立地条件、品種特性、需給動向等を十分に考慮すること。
    - イ. 施設栽培の野菜については、施設内の温度上昇を抑制するため、施設の妻面・側面を開放するとともに、作物の光要求性に応じて、遮光資材等を使用すること。遮光資材は、果実の日焼けや葉やけの防止にも有効である。細霧冷房装置、換気装置等を設置している施設では、当該装置を有効に利用して適切な温度及び湿度の管理に努めること。
    - ウ. こまめな除草や側枝、弱小枝及び下葉を除去し、風通しを良くすること。
    - エ. 育苗箱は、コンテナやブロックでかさ上げし、風通しを良くすること。
  - (2) 特に葉茎菜類  
乾燥によるチップバーンを防止するため、薬剤防除時にカルシウム剤を混用すること。
  - (3) 特に果菜類
    - ア. 不良果の摘果、若どりを行い、着果負担の軽減を図るとともに、適切な施肥により樹勢維持に努めること。
    - イ. 老化葉、黄色葉を中心に摘葉を実施し、水分の蒸発抑制に努めること。
    - ウ. カルシウム欠乏、鉄欠乏、ホウ素欠乏等の生理障害対策として、必要に応じて葉面散布を行うこと。

### 【果樹】

1. 干ばつ対策
  - (1) 干ばつ傾向にある地域においては、用水の確保に努め、敷わら、敷草等により、

土壌水分の蒸発を極力抑制しつつ、適宜かんがいを実施すること。草生園においては、干ばつ期の草刈りを実施し、防水透湿性シートによるマルチ栽培を行っている園地においては、マルチを巻き上げてかん水を行う、かん水チューブによりドリッパかんがいをを行う等により、地表面への直接かん水に努めること。

(2) なお、かん水に当たっては、かん水設備の漏水・目詰まり等に留意し、適切にかん水が行われるよう事前に点検を行うこと。

## 2. 高温対策

(1) 収穫期を迎える果実については、着色不良を防止するため、樹冠内光環境の改善、反射シートの活用によって着色を促すこと。

(2) 着色が遅延することに伴い収穫時期が遅れ、果実が過熟とならないよう、適期収穫に努めること。

(3) 高温によって果実の日焼けが発生しやすい園地においては、各種資材による遮光等の対策をとること。

(4) かんきつ類の浮皮は高温によって助長されるおそれがあるので、各種植物生育調節剤の活用を検討すること。

(参考) 農研機構「浮き皮軽減のための技術情報」

([http://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/publication/files/keigen.pdf](http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/files/keigen.pdf))

## 3. 病虫害対策

干ばつ時に発生し易いハダニ類については、発生動向に十分注意し、発生初期からの薬剤防除を実施すること。

### 【花き】

#### 1. 干ばつ対策

(1) 干ばつ傾向にある地域においては、土壌の保水力を高め、また、根を深く張らせるために、深耕、有機物の投入等に努めること。さらに、マルチ等により土壌面からの蒸発防止に努めること。

(2) ハダニ類、アブラムシ類等干ばつ時に発生が多くなる傾向の病虫害については、その発生動向に十分注意し、適期防除に努めること。

#### 2. 高温対策

(1) 切り花については、朝・夕の気温の低い時間に採花し、常温で長時間放置しないこと。また、エチレンによる劣化を防ぐため前処理剤を使用し品質の維持に努めること。

(2) 施設栽培の花きについては、施設内の温度上昇を抑制するため、施設の妻面・側面を開放するとともに、作物の光要求性に応じて、遮光資材等を使用すること。細霧冷房装置、換気装置等を設置している施設では、当該装置を有効に利用して適切な温度及び湿度の管理に努めること。

### 【こんにゃくいも】

高温による日焼け防止のため、ボルドー液の散布時には固着性展着剤を加用し散布を行うこと。また、腐敗病が誘発されやすいため、発生した場合は、早めに除去するとともに、適切に薬剤防除を行うこと。